

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月19日(木)

《神様のなみだ》

はっきりとは覚えていないのですが、イタリアの話だったと思います。

ある町に、2人の人がけんかになると、けんかを止めようとする人々が必ず口にする言葉があるそうです。それは、「あの人にも泣いているお母さんがいる。」という言葉です。

いろいろな美しい涙がありますが、この世の中で普遍的にみんなが認める美しい涙は、やはり子どものために泣くお母さんの涙でしょう。その涙を批判する人はいないと思います。このミサに与っているほとんどの方は、お母さんですので、それを強く感じられると思います。

今日の福音(ルカ 19・41-44)で、エルサレムが見えたときに、イエス様が泣かれたと書いてありますね。そして、「お前も平和への道をわきまえていたなら・・・」とおっしゃっています。本当にもどかしい心で嘆かれていることが表現されています。

皆様、立場を逆にしてみてください。皆様がもしイエス様だったら、この世は、上手く動いていると思うでしょうか。神様の眼になったつもりでこの世を見回してみてください。美しく見えるでしょうか。それとも悲しみばかりに見えるでしょうか。天地創造以来、泣いているのは人間ではなくて神様ではないかと思えます。今日も、明日も、そして遠い未来も、神様、イエス、私たちの母であるマリア様は、人間を創造した責任と愛のために、いつもお母さんのような涙を流しているのではないかと思えます。私たちは、その涙にどのような反応を見せるべきか、いつも意識しなければならないでしょう。

よく考えてみますと、この世の中は本当に神様の御心を痛めることばかりだと思えます。皆様もそう思われますよね。人類は、天地創造で完成されたわけではありません。だから、神様・イエス様を信じている私たちには、一番大きい義務が一つ与えられています。それは、天地創造の事業と一緒に与ることです。すでに完成されている世界ではなくて、神様が考えられた完璧な世界にこれからするために、イエス様と一緒にその事業に与って働くのです。たぶん、私たちが死ぬ時まで、それは完成されないと思えます。だから、環境問題に取り組んでいるいろいろな運動に意味があるわけです。破壊ではなくて建設の事業に、私たちは一緒に与らなければならないと思えます。

イスラエル人は、自分達が選ばれた民族であるという意識、いわゆる選民意識をとて強く持っていました。もちろん、選ばれたことは恵みです。しかし、その選ばれたことに対して持っている間違えた考え方が、自分たちの国を崩したのです。

皆様、私たちは、時には全体をしっかりと見なければなりません。私たちは、本当に平和への道を理解しているのでしょうか。イエス様が望んでいらっしやった平和の道と私が考えている平和の道が同じでしょうか。もし同じならば、私たちはいろいろな失敗を避けられるでしょう。しかし、自分が築いた世界、自分が築いた理想の中で、自分が考えたわがままな平和の道になってはいないでしょうか。今日の福音をとおして、気をつけなければならないことを良く考えましょう。

確かなことは、ここで批判されているイスラエル人のリーダー達、いわゆる律法学者やファリサイ派の人々は、自分達の道が正しかったといつも信念を持っていたということです。ということは、私たちも、正しいと確信しているけれど、実は、間違えた道を歩んでいるかもしれません。ですから私たちにキリストが必要なのです。正しい導きが必要なのです。わきまえる知恵が必要なのです。そして、その知恵は、神様しかくださらないものであることを考えなければなりません。

ありがとうございました。